

RL78/G10 ウォッチ式の表示 2018.6.5

ルネサスのCS+ for CC環境下で以下のようなウォッチ式は通常、

ウォッチ式	値	型情報(バイト数)	アドレス	メモ
ad0	656 (0x0290)	uint16_t(2)	0xffe3c	
sdata1	211 (0x00d3)	uint16_t(2)	0xffe3e	
sdata2	2 (0x0002)	uint16_t(2)	0xffe40	
fdata1	2.116129E+000	float(4)	0xffe42	
ad_buff	"AD0=2.11V"	uint8_t 20	0xffe24	

下のようにデバックツール→デバック・ツール設定→実行中のメモリ・アクセス→実行を一瞬停止してアクセスする→「はい」の設定にすることにより実行中に値を見ることが出来ました。RL78/G10シリーズでは更に、

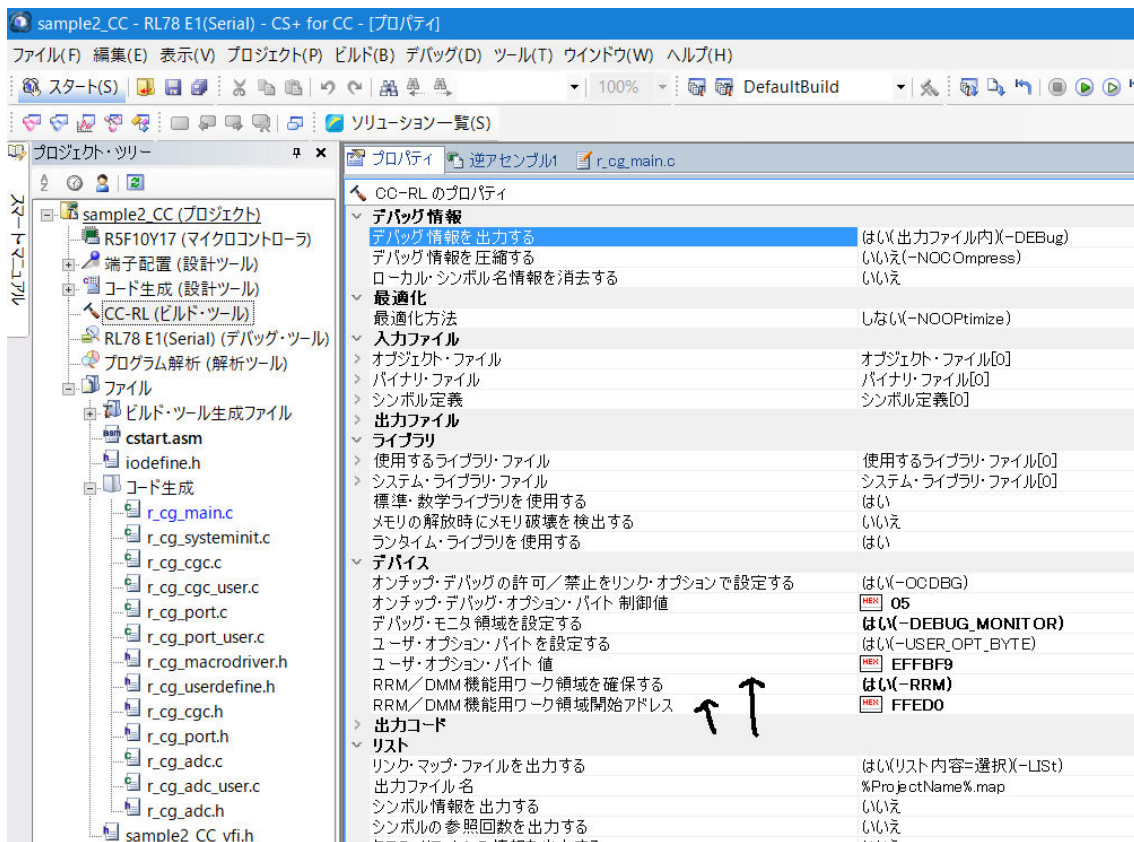
The screenshot shows the 'Properties' dialog for the 'RL78 E1 (Serial) (Debug Tool)'. The 'Memory Access During Execution' section is expanded, and the 'Execute and stop for a moment to access' option is set to 'Yes'. Other options include 'Memory Mapping' (Yes), 'Memory Verification' (Yes), 'Break' (No), 'Input Signal Mask' (No), and 'Step Execution' (No).

項目	設定
メモリ	
メモリマッピング	[10] はい
メモリ書き込み時にバリファイを行う	はい
実行中のメモリ・アクセス	
実行を一瞬停止してアクセスする	はい
実行中に表示更新を行う	はい
表示更新間隔[ms]	500
ブレーク	
停止時にタイマ系周辺エミュレーションを停止する	いいえ
端子リセット発生時にブレークポイントを復帰する	はい
入力信号のマスク	
TARGET_RESET 信号をマスクする	いいえ
ステップ実行	
指定セクションをスキップする	いいえ

実行を一瞬停止してアクセスする
実行中にはアクセスできないメモリ領域に対して、実行中に一瞬停止してアクセスするかどうかを指定します。

接続用設定 / デバック・ツール設定 / ダウンロード・ファイル設定 / フック処理設定

ビルド・ツール→プロパティ→RRM/DMM機能用ワーク領域を確保する「はい」、加えてアドレスを例えばFFED0と設定する必要があります。



この設定なしで、E1側の 実行中のメモリ・アクセス→一瞬停止してアクセスするを「はい」にすると、設定した周期で動作がおかしくなる場合があります。ご注意ください。

おかしくなる例

1. 定周期でポートをアクセスしているのに、時々周期がおかしくなる
2. A/Dを見ている周期が一定のはずなのに、時々周期がおかしくなる等々。

有限会社ビーリバーエレクトロニクス

埼玉県日高市高萩 1141-1

http://beriver.co.jp

info@beriver.co.jp